高知大学

地域協働学部

ともに学び、ともに育つ。

協働ってなに？

1年生 理解する。

まずは地域に入り、地域を体感する。
語らいや協働作業を通じて、信頼関係を築く。
それが協働の土台となります。

①地元の方と一緒にまち歩き ── 文化を「理解」する（高岡郡佐川町）
②新入生のためのスタートアップ合宿 ── 仲間を「理解」する（国立室戸青少年自然の家）
③彼岸花の植栽作業、中休みの歓談 ── やりがいを「理解」する（いの町星友奥名地区）
④びわの葉の加工作業を体験 ── 特産品を「理解」する（南国市稲生）

2年生 立案する。

学生がやりたいことを地域でやるのではなく、
地域の未来のために一緒に何ができるかを考える。
試行錯誤は覚悟の上です。

どうやって学ぶ？

⑤情報誌作成に向けた意見交換 ── 「立案」に地域を巻き込む（香南市西川地区）
⑥プリザーブドフラワーの需要に関する聞き込み調査 ── 「立案」のニーズを探る（黒潮町maprok）
⑦Tシャツアート展での来場者へのヒアリング ── 「立案」から実行へ（土佐佐賀産直出荷組合）
⑧学内で開催された中間報告会 ── 「立案」の成果を報告（朝倉キャンパス）

協働で
なにができる？

3年生

実践する。

学生と地域が同じ目的を共有し、
対等な立場で協力し、ともに働く。
その“本気”が、新しい風を吹かせます。

⑨KORETOMAPの設置 ── 協働活動の「実践」（いの町是友奥名地区）
⑩株式会社「里人」の挑戦 ── カフェ運営の「実践」（カフェ「satobito」）
⑪シイラを使った商品開発 ── 製造作業の「実践」（土佐佐賀産直出荷組合）
⑫学内で行われた成果報告会 ── 「理解」「立案」「実践」の集大成（朝倉キャンパス）

あなたは
どんな人になる？

⑬卒業研究の成果報告会
──「地域協働」の理論化（朝倉キャンパス）
⑭卒業研究の成果報告会
── 研究成果を共有し、新たな「地域協働」の可能性をさぐる
（朝倉キャンパス）
⑮協働的学びから生み出された製品
── 地域協働の理論と実践の統合の試みは
社会に出てもつづく

4年生

そして社会へ

地域協働を実践する中で得た力は、
あなたが将来どんな方向に針路をとっても
必ず役立つ力となるはずです。

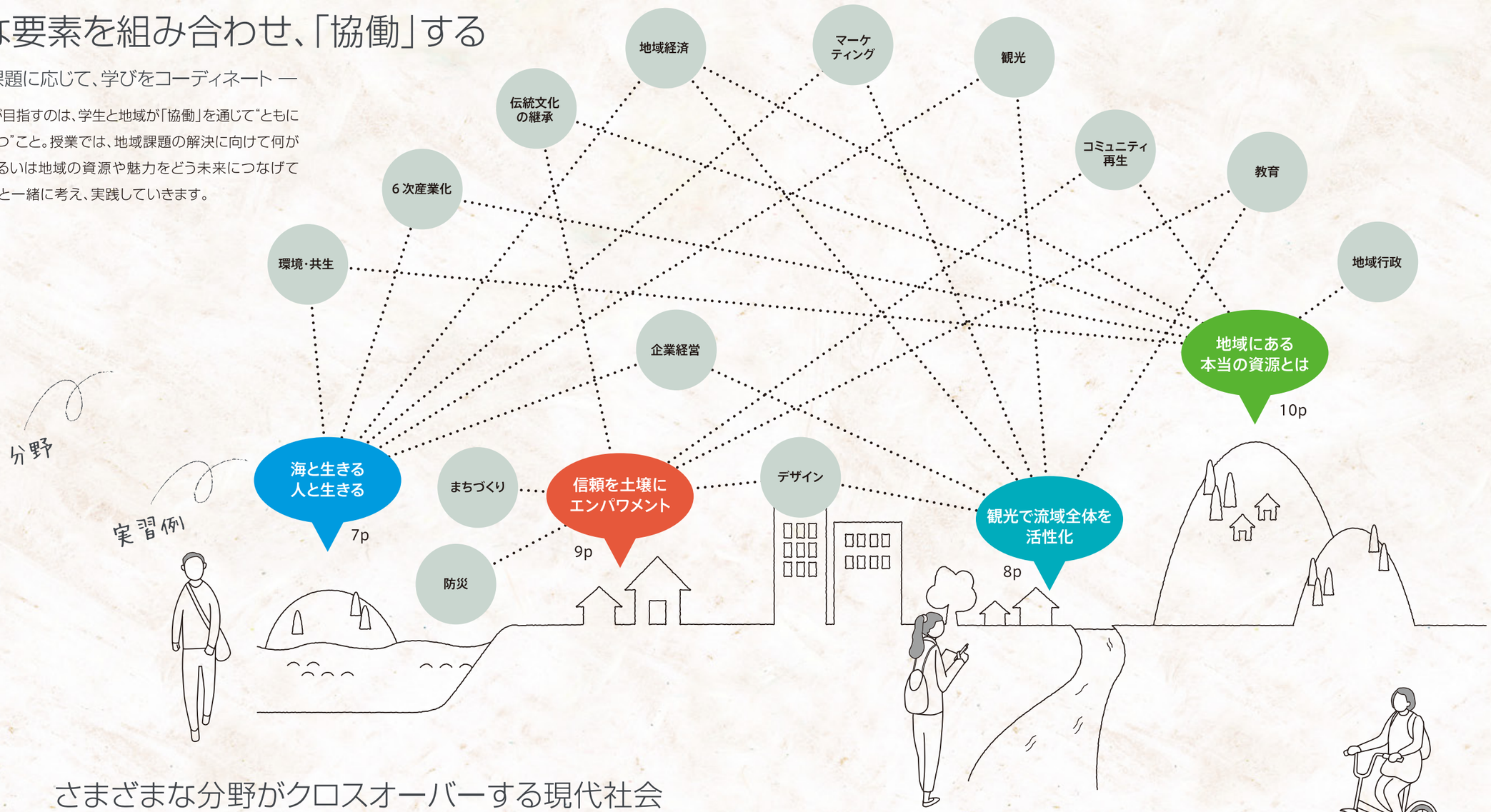
さあ、本当のスタートはここからです。

君たちがつくる新しい学び

多彩な要素を組み合わせ、「協働」する

— 地域や課題に応じて、学びをコーディネート —

地域協働学部が目指すのは、学生と地域が「協働」を通じて“ともに学び、ともに育つ”こと。授業では、地域課題の解決に向けて何ができるのか、あるいは地域の資源や魅力をどう未来につなげていくのか、地域と一緒に考え、実践していきます。



さまざまな分野がクロスオーバーする現代社会

地域は多様です。

そこに暮らす人、関わる人など地域には多様な主体があります。また抱える地域課題も、社会的・経済的環境の変化とともに複雑化しています。

解決にはさまざまな分野を学ぶ必要があります。

従来のものの見方では解決の糸口がつかめない、ひとつの分野の知識だけでは組織や物事が動かない——そんな現状を打破するのは、幅広い視野と専門性。総合力が求められます。

地域ごとのアプローチや実践が、「オンリーワン」の学びになります。

地域における協働の実践に、ひとつとして同じものはありません。調和的・継続的な課題解決に向けて取り組むプロセスのすべてが、新たな挑戦であり、価値の創造。従来の大学教育の常識を覆す、まったく新しい学びのかたちです。

答えはひとつではない

— 実習例から見る、地域協働のかたち —

地域協働の実習に、お手本やシナリオはありません。地域の特徴や人の想い、学生たちの個性に応じて、多彩な学びが広がっています。

海と生きる、人と生きる — 黒潮町 —

黒潮クラスター・さんちょく実習班 | 取材時1年生 |

黒潮町で魚の加工販売を手掛ける土佐佐賀産直出荷組合との協働を目指す、さんちょく実習班は、ひとつの地域に複数の学年・教員が連携して関わるクラスター制※のもと実習に取り組んでいる。フィールドワークで発見した地域の魅力を、商品の"ものがたり"としてSNSで発信し、販売促進や地域活性化につなげる試みだ。

※クラスター制：より長期的な視点で地域との協働を目指す、新しい実習形態。学生は、希望する実習地だけでなく、地域全体を理解していく。

SNSマーケティングやCM制作で海と人をつなぎたい

InstagramなどSNSマーケティングを通じて私たちが目指すのは、商品の物質的価値だけでなく精神的価値を高めること。当初は企業と学生の間で意見の相違もありましたが、議論を重ねながら想いや目標を共有し、協働をつくっている最中です。SNSだけに留まらず、CMや動画制作など様々な可能性を念頭に、商品とお客様、海と人とをつなぎたいと考えています。

▶この実習に関連する分野

環境・共生 / 観光 / 6次産業化 / 地域経済 / 企業経営 / マーケティング

1年2学期　地域理解

最終目標は企業の知名度アップと魚の食文化を広げること！

Instagramで商品の"ものがたり"を発信！

目標はフォロワー数増加と売上アップ

話し合いで目標を再共有

企業側：Instagram、Twitter、Facebook、You Tube すぐに全部発信したい

意見の食い違い

学生側：地域理解を深めながらまずはInstagramから徐々に広げたい

SNSで情報発信を開始

地域を"ぶらり旅"：まちの魅力を発見！過疎化などの課題にも気がついた

SNSマーケティング講習会：情報発信の極意を学ぶ

地域理解：黒潮町内の様々な地域をまち歩き

企業理解：企業見学 砂浜美術館見学

観光で流域全体を活性化 — 香美市・南国市・香南市 —

ものべクラスター・ものべみらい実習班・物部川DMOチーム | 取材時2年生 |

実習パートナーである株式会社ものべみらい、物部川流域の観光活性化を目指す物部川DMO協議会とともに、親子をターゲットにした新しい観光コンテンツの開発を協働で行う。地域の観光施設や首都圏・関西圏での調査、モニターツアーの実施などを経て、日帰りツアーの商品化に取り組んでいる。

観光に新しい付加価値を！親子向け体験型ツアーを企画

私たちのチームが挑んだのは、旅を通じて協働の力を育むという新しい価値をもった観光ツアーの開発です。物部川DMO協議会や連携した日本航空株式会社の方からも厳しい指摘や助言をいただきながら、顧客の人物像の設定、ツアー行程の設計、プロモーション活動まで、全力で取り組みました。商品化の難しさを学ぶと同時に、地域を巻き込んだ協働の可能性も実感できました。

▶この実習に関連する分野

観光 / 地域経済 / 企業経営 / マーケティング / デザイン / 教育

2年　企画立案

悔しい思い…次の機会に向けて挑戦は続く！

ツアー発売：結果として最少催行人数に足りず代わりに試行開催へ

プロモーション活動を展開：デザイン・クリエイティブセンター神戸「KIITO」視察 東京のアンテナショップなどでヒアリング

モニターツアー開催：販売する視点が足りないと指摘を受け、反省

再提案を重ね、企画が決定！：体験型日帰りツアー「ものべで子どもは変わる」

企画の進め方を一から見直し…

企画提案するも、厳しいダメ出しが続く

観光施設の視察：物部川エリア 20施設以上を見学

観光ツアー開発チーム活動開始：「子どものココロの成長」をコンセプトにツアー企画に挑戦

他地域の取り組みを学ぶ：第2回合宿 山口県秋芳洞、広島県宮島

物部川流域エリア

関係団体インタビュー：物部川DMO協議会の加盟団体、市役所、観光協会

イベント参加手伝い：龍河洞、ヤシィパーク

・地域の現状を知る
・組織を知る
・企業活動を知る

自分を知る 仲間を知る

チームビルディング：第1回合宿 高知県香南市

とにかく「考える」合宿！

1年2学期　地域理解

信頼を土壌にエンパワメント ― 南国市 ―

稲生実習班 ｜取材時3年生｜

地域活動の中核的存在である集落活動センター・チーム稲生と協働し、住民を巻き込んだ新たなサロン活動の展開や、地域情報誌「いなぶっく」の発行に取り組んだ稲生実習班3年生。実習の最終年度は、「自分たちの卒業後も地域で協働が続いていくしくみづくり」を目標に、地域の力を一緒に引き出していった。

協働のベースは信頼関係 地域とともに成長した3年間

小久保地区でのサロン活動は、当初大学生にしかできない内容だったものを地域の声を聞きながら、チラシづくりから実施運営まで住民主体できるしくみに移行。テスト開催も成功し、継続への手応えを感じました。また情報誌では、失敗を機に情報を発信することの責任を再認識することができ、クオリティの向上につながりました。地域の方々に深く感謝しています。

▶この実習に関連する分野

伝統文化の継承 / まちづくり / コミュニティ再生 / デザイン / 教育 / 防災

3年 企画実践

1年生チームが引き継ぐことに！

編集体制を見直し さらに喜ばれる 情報誌に改善！

地域主体で今後も継続！

住民主体の新たな「小久保サロン」へ

地域主体で持続できるしくみに移行

記事の正確性について地域からクレームが…

地域の信頼獲得！

2年 企画立案

地域情報誌「いなぶっく」の発行

感想シートで相互コミュニケーションを実現

「小久保サロン」活動開始

大学生のスキルを活かした実施メニューを提供

企画を再提案し、2案が実現へ

何度も話し合い、信頼回復に務める

関係性を再構築

集落活動センターのメンバーとワークショップを開催

1年2学期 地域理解

現地報告会で理解不足・配慮不足を地域から叱られる！

地域理解

まち歩き 自治公民館ヒアリング

他地域の視察

集落活動センター 社会福祉協議会など

地域にある本当の資源とは ― 土佐町 ―

いしはらの里実習班 ｜取材時3年生｜

地域課題を分析していく中で直販所「やまさとの市」の売上低迷に気づいた、いしはらの里実習班。その解決に向けて、施設の屋根ペイントや地元木材を活用した看板、プランター花壇の設置など、集客増の仕掛けづくりに地域と一緒に取り組んだ。今後は集落活動センターや地域の方が、活動を継続してくれる予定だ。

そこに暮らす人の想いや目に見えない地域資源をつなぐ

私たちは協働を実践する手前の課題分析の部分に相当な時間を費やしました。授業以外でも、頻繁に地域に出向き、大学に戻っては話し合いを行う。大変な作業でしたが、結果として地域の人の共感を得て様々なプロジェクトが実現しました。大切なのは、想いを共有しながら一人ひとりの得意や技術、人脈など見えない資源をつなぐこと。協働の本質を学ばせてもらいました。

▶この実習に関連する分野

環境・共生 / 伝統文化の継承 / コミュニティ再生 / 6次産業化 / 地域経済 / 地域行政

3年 企画実践

住民主体で、地域活性化の仕掛けとして今後も継続！

プロジェクト終了・完成！

花植えイベントには多くの地域住民が参加！

屋根ペイントや看板づくりから地域の中のものづくり人材がいることを知り、学ぶ

計画修正を余儀なくされる

土木事務所に許可申請するも半年後に却下

製材に必要な工程を知らず、着工ずれこみ

地元木材で看板づくり

屋根ペイント

プランター花壇の設置

プロジェクト決定！

目標は「やまさとの市」の集客UP

2年 企画立案

課題分析のやりなおし

課題を徹底的に洗い出す

やまさとの市に着目

ひょっとして私達、地域のことをちゃんと見れていなかったかも？

7つのプロジェクト案を出すも、どれもしっくりこない…

地域住民アンケート実施

対象は中学生以上の住民

回答数145名

最終回収率47%

1年2学期 地域理解

地域を知る理解する

まち歩きやヒアリング

授業だけでなく、地域のお祭や行事にもなるだけ参加

協働的学びとは

課題解決のプロセスには、困難や失敗がつきものです。それを乗り越え、地域協働をやり遂げるために必要なのが、「判断力」、「粘り強さ」、「マネジメント力」です。協働的学びによって、これらの力を養います。

鍵となる2つのサイクル

最大の特徴は、地域での学び（実践）と大学の学び（座学）の往還。大学で学ぶ理論や専門性（＝専門知）と、現場で必要とされる対応力や柔軟性（＝実践知）を重ね合わせ、そのギャップを埋めながら、協働の本質を学んでいきます。さらに、すべての科目において個人学習とグループ学習を繰り返すことにより、学びの質と意欲を高めます。

2つのサイクルを回しながら学ぶ

答えを見つける、創り出す

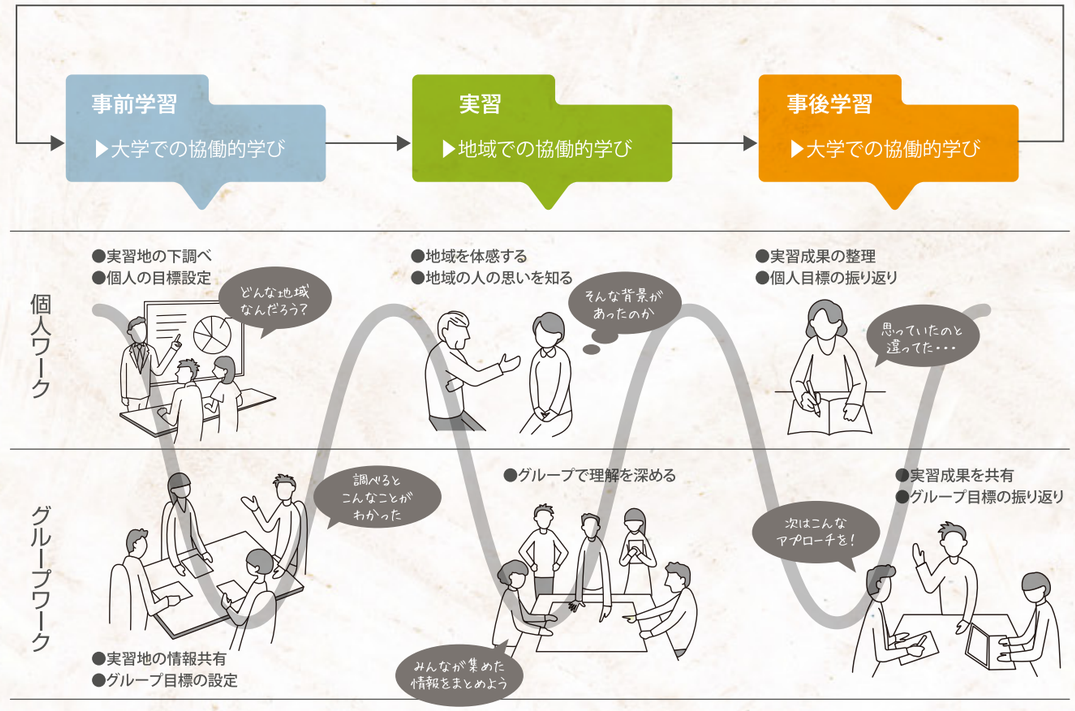
▶協働はひとつではない

地域と大学の往還の中で、いくつもの協働が生まれます。

①地域の多様な主体との協働：
　一般住民、地域の生産者、企業、商店街、地域活動団体、学校、行政など
②学生同士の協働：講義でのグループワーク、実習での役割分担など

▶グループワークと個人ワークの相乗効果

協働的学びの基本は、グループワークです。個人ワークの内容を仲間同士で共有することで、“気づきあい”、“刺激しあい”、“批評しあい”、“高めあい”の効果が生まれます。



社会の現実の中で自ら学び、自分の可能性を広げよう

大石達良　学部長

高校生の皆さんは、大学進学を前にして、自分の将来について真剣に考えていることでしょう。

これからの世界は、時代の変化が格段に速くなり、不確実性がいっそう増していくと考えられています。そのような世界で自分がどのように生きていくか、確固たる人生像を描くことはなかなか難しいように思われます。

私は、このような現実の中で大切なことは、自ら学ぼうという意思を持ち続けることだと思っています。自ら学び考える中で、社会についての理解が広く深くなり、今まで認識できなかった新たな世界が見えてきます。そしてその社会の中で自分ができることやすべきことも必ず見えてきます。

大学生活の中では、自分を取り巻く社会が客観的に変化する速さ以上の速度で、皆さん自身が主観的に認識する社会像が変化するはずです。そのような変化を恐れるのではなく楽しみながら、その中での自分の将来について考えて欲しいと思います。

地域協働学部は、このような自ら学ぼうとする若者にとって格好の学修の場を用意しています。現地実習では、学外に出かけ社会の現実を理解した上で地域の方々との協働による実践的な学びが行われます。また学内授業では、先行研究の検討や、学生同士の議論による協働的な学びが行われます。

ただ、協働的な学びの過程は、綺麗事だけで済まないものです。皆さんが、地域社会が抱える課題を解決し地域社会の発展を図るためには何をすべきかについて考えるとき、現実の問題の深刻さに押しつぶされそうになったり、出口の見えない議論にうんざりしたりすることもあると思います。

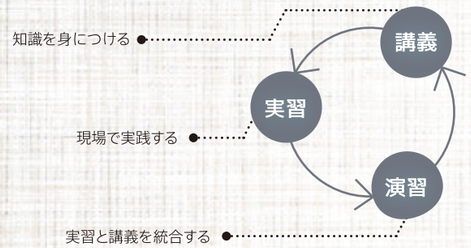
しかし、地域協働学部には、皆さんを支援してくれる人々がたくさんいます。地域の方々（実習受入地域の方々、地域の企業や団体の方々など）、学生の仲間（同級生、先輩や後輩）、そして大学の教職員。私たちは、皆さんを精一杯サポートしていきたいと思っています。

ぜひ、地域協働学部で一緒に学び、自分の世界、自分の可能性を広げましょう。

成長へのステップ

段階的プログラムで、自律的な成長を促す

▶三層の科目群



講義で基礎となる知識・技法を学び、その知識をもって地域に実習に入ります。実習で取り組んだ結果は、演習で分析・整理し、次のステップにつなげます。この3つの科目群がPDCAサイクルを描き、高い学習効果を発揮します。

▶実習を柱とするカリキュラム

実習科目 …… 講義科目 …… 演習科目

1年生 地域理解力を身につける

第1学期
課題探求実践セミナー
高知の町や村で何が起こっているのか、地域の人たちは何を考え、どのように行動しているのかをサービス・ラーニングを通じて知り、地域に向き合う作法を身につける。

第2学期
地域理解実習
地域の活動の手伝いやヒアリングを通じて、地域の特性や課題を理解する。「地域理解力」の基礎を固める。

学習成果報告会

共通教育

初年次科目　教養科目

総合科目

地域協働論
生涯学習概論Ⅰ
地域産業経済論
地域社会学概論
社会調査論
社会調査方法論
社会調査データ分析
統計解析の基礎
質的調査法
企画立案事業計画基礎演習
地域協働チャレンジ演習Ⅰ、Ⅱ
ファシリテーション演習または
チームビルディング演習

地域協働研究Ⅰ
共通テーマ　地域課題の分析を通じた地域社会の理解

2年生 企画立案力を身につける

第1学期
地域協働企画立案実習
地域課題・地域資源の発掘・分類・整理を行い、地域資源を活用して課題解決を図るための企画立案（商品開発・プロジェクト等）を行う。「地域理解力」に加え、「企画立案力」の基礎を固める。

第2学期
地域協働事業計画実習
地域資源を活用した商品化やプロジェクト・事業を実践する。商品開発・プロジェクト・イベント等の事業計画の立案と試行を通じて、「企画立案力」を発展させる。

学習成果報告会

専門教育

地域協働マネジメント分野
組織学習論　地域計画論　行財政論　地域資源管理論　経営組織論　非営利組織 マネジメント論　社会教育経営概論　会計学概論　社会教育論
行政実務講座　金融・税務実務講座　海外特別演習　外国語特別演習　地域協働マ ネジメント特別講義

地域産業分野
フードビジネス論　6次産業化論　地域産業政策論　農業振興論　経営学　国際 ビジネス展開論　地域産業連関論　中心市街地活性化論　里山管理論
産学官民連携論　アントレプレナーシップ論　コンテンツマーケティング論　デザイン 論Ⅰ(基礎)　デザイン論Ⅱ(応用)　地域産業特別講義

地域生活分野
地域福祉論　生涯学習概論Ⅱ　地域健康スポーツ振興論　スポーツ社会学　環境社会学　コミュニティデザイン論　ソーシャルキャピタル論
地域防災論　比較地域社会論　非営利組織論　環境文化論　労働・生活とジェンダー　地域生活特別講義

多変量解析　プロジェクトマネジメント演習　社会調査実践演習
サービスデザイン基礎演習または非営利組織経営基礎演習

地域協働研究Ⅱ
共通テーマ　地域協働における企画立案の手法と意義

3年生 協働実践力を身につける

第1学期
地域協働マネジメント実習Ⅰ
「地域協働事業計画実習」において策定した事業計画を実践し、その結果について点検・評価を行い、改善に向けた評価案の策定と自己評価を行う。やり抜く力とリーダーシップを育て、「協働実践力」の基礎を固める。

第2学期
地域協働マネジメント実習Ⅱ
実践とその評価結果を地域住民と一緒に共有し、改善案を検討するワークショップを学生が主体となって計画・実施し、取りまとめを行う。ファシリテーション力や合意形成力を育成し、地域を巻き込み活動を進める「協働実践力」を身につける。

学習成果報告会

地域協働研究Ⅲ
共通テーマ　実践に求められる協働の理論

4年生 地域協働マネジメント力の統合・深化

通年
地域協働実践
3年生までに実践した実習と学びを踏まえ、地域協働型プロジェクトの企画立案を行い、それを実践する。プロジェクトでは、協働パートナーを自ら見つけ、地域の特性を理解した上で、地域が有するさまざまな資源を活用するための協働の組織化を行う。
卒業研究では、地域協働実践を通じて獲得された個人の知識を理論化し、各地域における地域再生・発展のためのエッセンスを明らかにする。

卒業研究報告会

社会へ

卒業研究

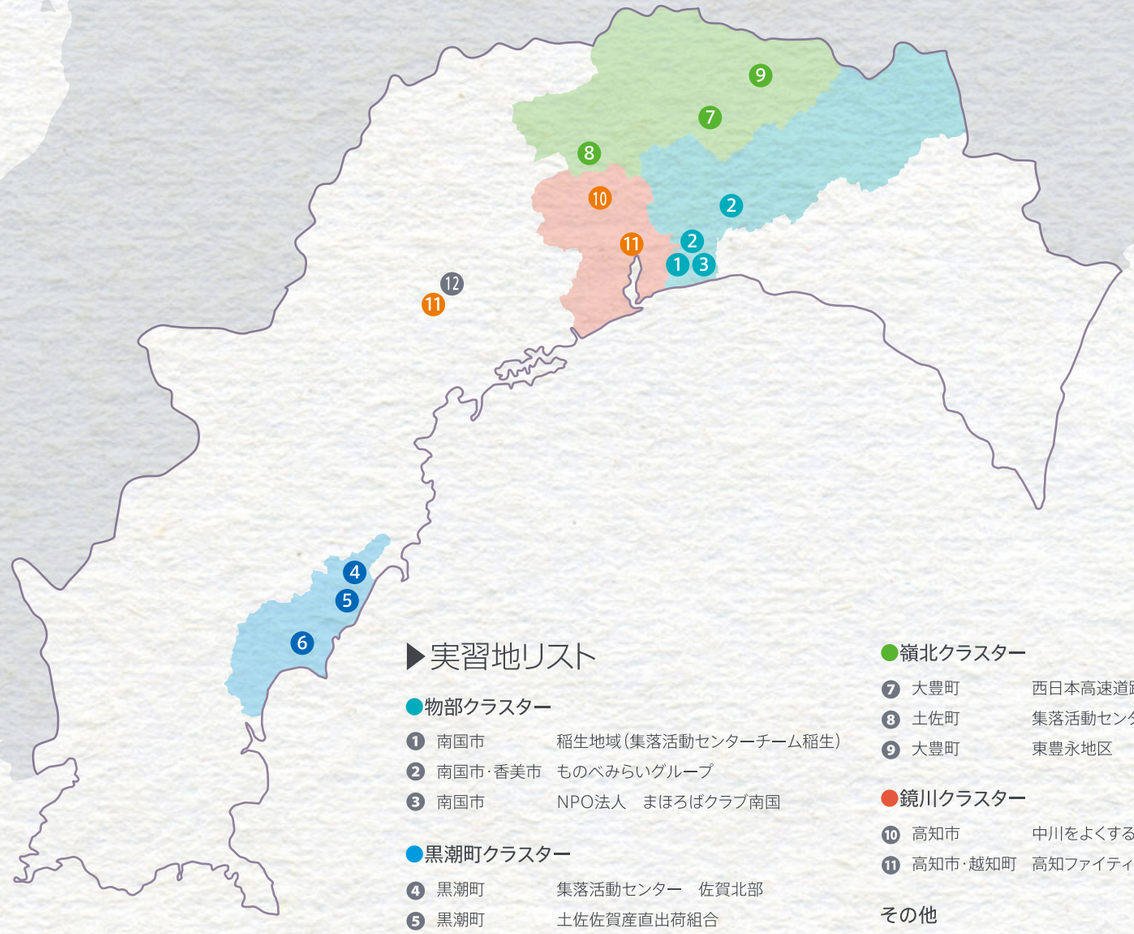
地域、企業、大学が一緒に人材を育てる

地域の懐に飛び込んで学ぶ

地域協働学部では、地域での実習に3年間で600時間を超える、他に類を見ない多くの時間を割いています。地域や企業の胸を借り、協働を実践しながら学ぶ中で学生は大きく成長し、同時にパートナーである地域や企業にもさまざまな変化をもたらしています。

▶高知で学ぶ意義

南には雄大な太平洋、北には急峻な四国山地が控える高知県。その豊かな自然と温暖な気候は、おおらかで独立心旺盛な県民性を育んだと言われています。一方で、全国に先駆けて少子高齢化が進み、日本の将来モデルとしてさまざまな社会課題、地域課題への取組が先行。近年は、住民力、企業力を活かした集落再生や新たな地場産品の開発など、産学官民が協働した試みも多く生まれています。



▶実習地リスト

●物部クラスター

1. 南国市　稲生地域（集落活動センターチーム稲生）
2. 南国市・香美市　ものべみらいグループ
3. 南国市　NPO法人　まほろばクラブ南国

●黒潮町クラスター

4. 黒潮町　集落活動センター　佐賀北部
5. 黒潮町　土佐佐賀産直出荷組合
6. 黒潮町　であいの里蜷川

●嶺北クラスター

7. 大豊町　西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
8. 土佐町　集落活動センター　いしはらの里
9. 大豊町　東豊永地区

●鏡川クラスター

10. 高知市　中川をよくする会
11. 高知市・越知町　高知ファイティングドッグス

その他

12. 佐川町　集落活動センター　くろいわ

▶地域からのメッセージ

“Win-Win”で生み出す協働のかたち

山﨑 昇さん　集落活動センター チーム稲生（南国市）　会長

東西に長く田園風景が広がる当地域は、もともと稲作や石灰産業で発展してきたまち。近年、少子高齢化が進み、地域の文化や絆を残そうと集落活動センターの活動を開始する中で、地域協働学部の皆さんとの「協働」もスタートしました。

実習受け入れは今年で5年目。どの学年もそれぞれメンバーの個性や視点が異なり、地域で見つけてくる課題や解決に向けた取り組みも様々です。最初に受け入れた2期生は中谷地区で避難マップづくりなどの活動を、続く3期生は地域情報誌「いなぶっく」の発行や小久保地区で高齢者に向けたサロン活動を展開。現在、4期生が衣笠地区で石灰産業などまちの歴史写真館を作るプロジェクトを、さらに下の学年は地域を知り住民の思いを理解するフィールドワークをしながら、次の協働を創り出そうとがんばっています。彼らから刺激を受けて地域のあちこちでいい変化も生まれており、協働によるWin-Winを実感しています。

現在3つの学年が入っている稲生地域では、集落活動センターの拠点・ふれあい館や14ある各地区での活動、小学校と協働した取り組みなど多様な学びが行われている。また実習だけでなく、地域のお祭りや行事にも学生たちは積極的に参加し、地域住民と顔の見える関係を築いている。

スポーツの力で、地域を元気に！

永井理大さん　株式会社 高知犬 高知ファイティングドッグス球団 統括本部長

高知ファイティングドッグスは、四国アイランドリーグplusに所属する野球チームです。我々自身も地域密着・地域貢献を掲げて活動しており、地域協働学部の理念に共感して学生を受け入れ、ともに人材の育成に力を注いでいます。

学生たちは、ヒアリングやアンケートなど様々な手法を通じて、ホームタウンとの関係性や球場への集客といった課題を拾い上げ、その解決に向けた企画を提案してくれます。その中から、冬には小学校で選手と一緒に朝の挨拶運動を行ったり、夏の公式戦では観客と一体になってゲームを楽しむ仕掛けを企画したりと、協働してプロジェクトに取り組んできました。彼らには、こうした実践を通して経営、商品企画、販売、イベント、CSRといった多様な企業活動の側面を知り、自分たちの視野や仕事観を広げてほしいと思っています。そして、スポーツが持つ“地域を元気にする力”を、将来の進む先で活かしてほしいと願っています。

高知球場でのBINGO大会の様子。選手のヒット、ホームラン、盗塁阻止など、ファイティングドッグスのプレイにあわせてBINGOを開けるイベントを通じて、観戦初心者のお客さんにも野球の楽しさ、簡単なルールを伝えることができた。

企業人と出会い、自分を磨く

地域協働学部の学びを支えるもう一つの大きな力、それが企業や公的機関とのネットワークです。さまざまな業界・業種・規模の法人やその経営者、行政職員などが定期的に学生と関わり、成長を後押ししてくれています。

▶高知大学地域協働学部「地域協働教育推進会議」

― 学生の成長を支える“応援団” ―

「地域力を学生の学びと成長に活かし、学生力を地域の再生と発展に活かす」という本学部の教育理念に賛同くださった企業などで構成される組織です。会員企業と学生が直接交流する機会を定期的に設け、学びや実習に対して助言・支援を行うほか、社会人師匠講座を主催しています。

会員数（2020年度）

法人・団体会員 **68**団体

個人会員 **70**人※

※うち賛助会員5名

▶企業からのメッセージ

学生とともに企業も育つ

中澤陽一さん　高知大学地域協働学部「地域協働教育推進会議」代表理事／和建設株式会社　代表取締役社長

私が代表理事を務める地域協働教育推進会議は、学生の活動拠点となっている県下いろいろの地域が持つ課題に向き合い、学生自らが考えて行動する活動を応援していこうとの想いで組織しています。

一方で学生へのちょっとしたアドバイスから大学の課題への論評まで、いろいろの機会をとらえて少しでも接点を持てるように運営しています。

そうしたつながりを通して、地域への想いや若い人たちの考え方を共有することで、我々自身が勉強になる場面に出会うこともあります。

激しく変化する時代の中で、学生との世代を超えた交流が、企業をさらに進化させていく力となることを心より願っています。

「学習成果報告会」と「実習成果報告会」
２つの重要な報告会

積み上げ型の教育プログラムを特徴とする本学部では、学期ごと及び学年ごとに活動を振り返ってまとめ、プレゼンテーションする場を設けています。主に実習受け入れ地域の方々や保護者向けの「実習成果報告会」と、地域協働教育推進会議会員や県下の自治体向けの「学習成果報告会」があり、どちらも学びを省察し客観的に評価する重要な機会となっています。

学びを支える教員たち

学生たちが自ら考え、主体的に実践を行っていく上で、学びのファシリテートを行うのが教員の役割です。いくつもの要素が絡み合う地域の課題に向き合うため、幅広い専門性や人脈を持った教員が学生たちを導き見守ります。

▶教員からのメッセージ

「大学生の学び」をしよう

玉里恵美子　教授

担当科目：地域福祉論など

「特産品を開発したい」、「安心安全に暮らし続けたい」、「観光で交流人口を増やしたい」など、地域の課題はいろいろです。では、どのようにすれば、それらの課題に答えることができるのでしょうか。地域に訪問するだけでは簡単に答えは出ません。しかし、あきらめずに、何度も何度も地域の人びとと学生とそして専門知識を持つ教員が話し合い、考え、協働して、課題の解決に向けて持続的に実践していくことで、何かが変わり、何かが生まれていきます。

地域協働学部では、知識と分析と実践が結びついた「これが大学生の学びだ」といえる学びのスタイルを提供します。期待してください。

「出会いと対話」が自分・仲間・世界をつくる

斉藤雅洋　准教授

担当科目：社会教育論など

地域協働学部の「学び」とは何でしょう。いくつもの「学び」に対する考え方がある中で、私は人・モノ・コトとの出会いと対話が、自分をつくり、仲間をつくり、世界をつくるという考え方が合うように感じています。本学部の学生たちは、地域の課題解決にむけた企画の協働的な実践を目指して、地域の自然や文化、生業と出会い、地域で活躍している多彩な人達と対話し、自身を取り巻く世界の見方や考え方を変えていきます。ドラマあり、感動ありの自分・仲間・世界づくりに、チャレンジしてみませんか。

▶教員一覧

池田啓実　石筒覚　市川昌広　今城逸雄　上田健作　内田純一　大石達良　大槻知史　斉藤雅洋　佐藤文音　佐藤洋子
霜浦森平　鈴木啓之　須藤順　田中求　玉里恵美子　中澤純治　中村哲也　藤岡正樹　俣野秀典　松本明　湊邦生
森明香　吉岡一洋

詳しい教員情報はホームページまで

入学者選抜の考え方

入試の基本的な考え方

地域協働学部では、意欲、関心、適性、技能、表現を重視した入学者選抜を行います。専門の教育課程においては、実習とゼミナールを重視したカリキュラムを用意しています。このような教育課程で学ぶには、入学時に一定の集団的行動・集団的学習や学外の「おとな社会」とのコミュニケーションに適合する資質を持っていることが必要です。そのため、総合型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅰ、一般選抜（前期日程）のすべてに「**面接**」、「小論文」または「作文」を課し、人物重視の選抜方法を採っています。

アドミッション・ポリシー

地域協働学部は、地域理解力、企画立案力、協働実践力という３つの知識・能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見・分析・統合し、産業の分野や領域の壁を越えて人や組織などの協働を創出でき、卒業後即戦力として活躍できる「地域協働型産業人材（６次産業化人、地域協働リーダー）」を養成します。本学部では、このような人材養成の基盤となる、以下の能力・態度を備える者を求めます。

知識・技能

- 入学までの過程で理系・文系を問わず幅広い教科を積極的に学び、地域協働に関連する専門的知識を修得するために必要となる幅広い分野の基礎知識として、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している。

思考力・判断力・表現力

- 論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことができる。
- 自らの行動や体験について深く見つめ直し、客観的に分析することができる。
- 自分の表現を客観的に見つめ、他者に伝わる表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって充分な表現力を持っている。
- 豊かな教養に裏打ちされた能力で、課題の発見・探求とその解決にあたることができる。

主体性・多様性・協働性

- 学生同士の協働を基礎として、チームとして考え、行動し、課題の解決にあたることができる。
- さまざまな行動体験がある。
- 地域や日本社会に生起する問題の解決に挑戦する行動力を有する。

関心・意欲

- さまざまな問題領域の知識や技術に対して関心がある。
- 地域や日本社会に生起する問題に関心がある。
- 地域社会に存在する諸課題とその実践的解決、特に地域産業の振興に関心があり、積極的に地域社会の人々と協働する意欲がある。
- さまざまな行動体験を自らのキャリア形成や地域社会の人々の協働に活かす意欲がある。

総合型選抜Ⅰの2段階選抜

総合型選抜Ⅰでは、２段階選抜を行います。第1次選抜では、「講義理解力試験」で評価します。「講義理解力試験」は、入学直後の学生に理解できる水準の講義を実施し、それに基づいて講義内容の要点や自分の見解を論述するなどの小論文的な記述試験を行い、「思考力・判断力・表現力」を評価します。
第1次選抜の合格者は総合型選抜Ⅰ募集人員の2倍を上限とします。第2次選抜では「ゼミナール活動適性試験」、「作文」、「面接」を課します。「ゼミナール活動適性試験」では、グループワークでの受験者のふるまい（発言、傾聴、行動、発表、質問等）を試験官が観察し採点します。「作文」では、グループワークの内容、運営、自己と他者の役割等に関する振り返りを文章にしてもらいます。「**面接**」はグループ面接で行い、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を評価します。また、「面接」で受験者の意欲・関心、この学部の教育への適性をより正確に評価するため、出願時に、自分の行動体験についての分析、出身地域の社会に対する分析、本学部への志望理由などを記述した志願理由書を提出していただきます。

学校推薦型選抜Ⅰのグループ活動および振り返り演習

学校推薦型選抜Ⅰでは、「グループ活動および振り返り演習適性試験」、「作文」、「面接」を課します。
「グループ活動および振り返り演習適性試験」では、短時間のグループ活動を行ってもらい、それを踏まえて、グループ内の運営やメンバーの果たした役割に関する振り返りを行ってもらいます。「作文」では、グループワークの内容、運営、自己と他者の役割等に関する振り返りを文章にしてもらいます。「面接」は個人面接で行い、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を判断します。また、面接で受験者の意欲・関心、この学部の教育への適性をより正確に評価するため、志願理由書を提出していただきます。

一般選抜（前期日程）への面接等の導入

一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストによって基礎学力を評価する他、本学の独自試験として「小論文」と「面接」を課します。「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考力・判断力・表現力」を評価します。「面接」では、簡単なグループ作業（討論や共同作業など）を含むグループ面接を行います。グループ作業を行ってもらうのは、受験者の協働人材の出発点となる資質 —— 異なる視点を持った他者と協力して行動する資質 —— を確認するためです。また、この面接において、受験者の意欲・関心やこの学部の教育への適性を評価します。なお、面接で受験者の意欲・関心、この学部の教育への適性をより正確に判断するため、志願理由書を提出していただきます。

入試情報

地域協働学部の選抜・評価方法

募集人員 60名

総合型選抜Ⅰ　募集人員：15名

■選抜の方法　大学入学共通テストを課さず、本学独自の2段階選抜による試験（第1次選抜100点、第2次選抜300点）で判定します。
第1次選抜の合格者は総合型選抜Ⅰ募集人員の2倍を上限とします。
■重点評価項目　「関心・意欲」に重点を置いて「思考力・判断力・表現力」も評価します。

本学独自の第1次選抜（合計100点）	本学独自の第2次選抜（合計300点）		
講義理解力試験（100点）	ゼミナール活動適性試験（100点）	作文（100点）	面接（100点）
約90分の講義を聴いてもらい、それを前提とした小論文等の形式の筆記試験を行い、主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。	休憩を含め3時間程度のグループディスカッション（指定テーマに基づくグループ討議、発表、質疑）を行ってもらい、「主体性・多様性・協働性」の特にコミュニケーション力を評価します。	ゼミナールの討議内容、チーム運営の仕方、自分と他のメンバーの役割などについての評価を文章にしてもらい、「思考力・判断力・表現力」の特に書き言葉での表現力を評価します。	志願理由書と第2次選抜の内容に基づく質問を面接の形式で問い、上記の重点評価項目について総合的に評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ　募集人員：10名

■選抜の方法大学入学共通テストを課さず、本学独自の試験（400点）で判定します。
※出願資格として高等学校等を令和3年3月卒業（修了）見込みの者で、学校長の推薦（評定平均値4.0以上、各校1名）を求めます。
■重点評価項目「主体性・多様性・協働性」に重点を置いて、「思考力・判断力・表現力」「知能・技能」も評価します。

本学独自の試験（合計400点）		
グループ活動および振り返り演習適性試験（200点）	作文（100点）	面接（100点）
グループ活動（共同して所定時間内で行える作業や討論など）を行ってもらい、グループ活動中の行動特性や振り返り演習での役割などについて観察し、「主体性・多様性・協働性」の特にコミュニケーション力を評価します。	グループ活動および振り返り演習適性試験の内容に関して、文章を書いてもらい、「思考力・判断力・表現力」の特に書き言葉での表現力を評価します。	面接は、個人面接とし、志願理由書記載の志願理由を掘り下げ、本学部で学ぶ「関心・意欲」、経験・技術（農業、水産、工業、商業、芸術・デザイン、スポーツ等）などについて確認すると共に、本学部の教育カリキュラムへの適性を評価します。

一般選抜（前期日程）　募集人員：35名

■選抜の方法　大学入学共通テスト（500点）と本学独自の試験（500点）の合計1000点で判定します。
■重点評価項目　「知識・技能」に重点を置いて「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」も評価します。

大学入学共通テスト（合計500点）	本学独自の試験（合計500点）	
	小論文（200点）	面接（300点）
3教科3科目又は3教科4科目合計500点で実施します。 ●国語（200点）、外国語（200点）※は必須です。 ●残り1教科は、地歴、公民、数学、理科の4教科から1科目（基礎を付した理科は2科目）を自由に選択できます。（100点） これによって「知識・技能」について評価します。 ※「外国語」の教科について「英語」はリスニングを含む。	「小論文」では地域社会の問題に関する課題文を読んだ上で、その論旨や受験者の見解を論述してもらい、「思考力・判断力・表現力」を評価します。	グループ面接（グループ単位で提示されたテーマについて討議やプレゼンを行う作業を含む）を実施することで「関心・意欲」、思考力・判断力・表現力」、本学部の教育に関する適性を評価します。 出願書類として志願理由および高校までの体験等の振り返りを書いていただき、面接の参考にします。

▶インターネット出願に完全に移行します。

インターネット出願に関する詳細は、各募集要項内に記載しています。
次のホームページで閲覧またはダウンロードしてください。

高知大学入試情報ホームページ
https://nyusi.kochi-u.ac.jp/

入試に関するお問い合わせ先

学務部入試課入試実施係
TEL 088-844-8153　FAX 088-844-8147
E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

地域協働学部へのアクセス

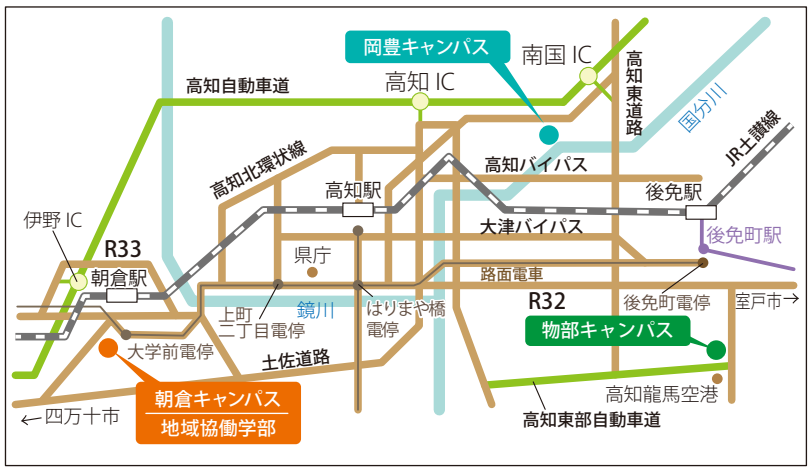
地域協働学部までの所要時間は次の通りです。

●高知龍馬空港から　車で約40分
空港連絡バスで約35分「はりまや橋」または、
約40分「JR高知駅」で下車後、バス、路面電車または
JR土讃線へ乗換え

●JR高知駅から　車で約20分
バスで約25分、「朝倉高知大学前」下車
路面電車で約30分、「朝倉（高知大学前）」下車すぐ
JR土讃線で約15分、「朝倉駅」下車、徒歩3分

●はりまや橋から　車で約15分
バスで約20分、「朝倉高知大学前」下車
路面電車で約30分、「朝倉（高知大学前）」下車すぐ

●高知インターチェンジから　車で約30分
●伊野インターチェンジから　車で約5分



高知大学
Kochi University

高知大学 地域協働学部

〒780-8520　高知県高知市曙町2-5-1　TEL 088-888-8042　FAX 088-888-8043
E-mail ks52@kochi-u.ac.jp
高知大学ホームページ https://www.kochi-u.ac.jp/
地域協働学部ホームページ http://www.kochi-u.ac.jp/rc/